

会社概要 (2022年12月31日現在)

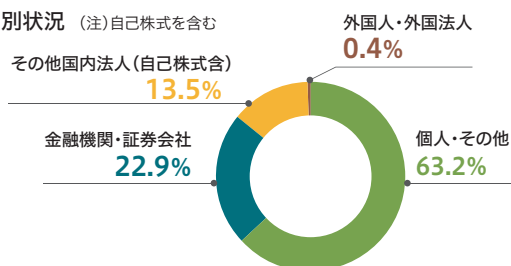
商号	株式会社FCホールディングス Founder's Consultants Holdings Inc.	連結子会社	株式会社福山コンサルタント(福岡県) 株式会社環境防災(徳島県) 株式会社地球システム科学(東京都) 株式会社エコプラン研究所(福岡県) 福山ビジネスネットワーク株式会社(福岡県) 株式会社SVI研究所(東京都)
代表者	代表取締役社長 福島 宏治		
本店所在地	福岡市博多区博多駅東三丁目6番18号		
資本金	4億円		
従業員数	394名(連結)		

株式の状況 (2022年12月31日現在)

■ 株主の状況

発行可能株式の総数 12,000,000株
 発行済株式の総数 6,235,894株
 発行済株式の株主数 2,912名
 上場取引所 東京証券取引所スタンダード
 証券コード 6542

■ 所有者別状況 (注)自己株式を含む



■ 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
FCホールディングスグループ社員持株会	453	7.82
株式会社もみじ銀行	265	4.58
株式会社西日本シティ銀行	221	3.81
株式会社福岡銀行	215	3.71
株式会社十八親和銀行	194	3.36
奥村 学	186	3.22
光通信株式会社	153	2.64
東海東京証券株式会社	137	2.36
株式会社SBI証券	127	2.21
丸田 稔	126	2.19

※当社は自己株式(434,835株)を保有していますが上記表から除いています。

株式事務のご案内

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで	株主義管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
定時株主総会	毎年9月	同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324(フリーダイヤル)
配当基準日	期末(6月30日)、中間(12月31日)	(連絡先)	
公告方法	電子公告により行います。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。 ホームページアドレス https://www.fchd.jp/ir/shareholder_information.html		





新しい価値の創造により 社会の持続的発展に貢献します

～「基本は技術」～ をStrong Cultureとして

代表取締役社長 **福島宏治**

株主のみなさまにおかれましては、平素から格別のご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

株式会社FCホールディングスグループの2023年6月期第2四半期の業績は、開発途上国向けの海外業務における履行の遅れが残ってはいますが、堅調な国内業績を背景に全体的には期首計画どおりに推移中です。特に過年度から推進してきたDX施策により、生産工程における効率化が効果を生み始めました。当社グループが展開する建設コンサルタント分野の市場環境は、国内外ともに一定規模の公共投資が継続されています。対象予算の編成動向をみても、当面はこの傾向が継続していくものと見込んでいます。

このような市場環境とコロナ後の社会情勢の変化予想を踏まえて、当社グループでは今期より第5次中期経営計画「Redefinition:再定義(期間6年)」をスタートしています。その中では3つの成長戦略として、①既存事業の深化、②共創戦略の強化、③M&A推進による規模と市場の拡張、を掲げました。加えて、社会的要請事項となっている人的資本投資については、戦略ループの掛け算を動かしています。研究開発成果では、他者との共創事業の稼働や、AI技術を活用した特許取得と市場投入等、複数の萌芽も見えてまいりました。より一層の高い技術的知見の獲得と内在するアイデアの具現化を進めてまいります。

急変し多様化する社会的ニーズや、社員一人一人の働き方を全グループ企業で改めて定義して、組織全体としてぶれることなく目指すべき方向に進んでまいります。「基本は技術」の強い文化思考を軸に、社会に役に立ち続ける自律した個人と組織であり続けることが我々の社会的使命です。その過程と成果によって、株主、顧客、職員の各ステークホルダー満足度の持続的向上につなげてまいります。また、IR活動等により株主並びに広範囲の投資家層との対話を強化し、株式価値の増加に努めてまいります。

当社の設立母体企業から通算すると、本年3月で創業75年目に入りました。「新しい価値の創造により社会の持続的発展に貢献する」企業集団を目指し、事業活動を通じて、環境(Environment)、社会(Social)に配慮した経営を行うとともに、風通しよく、働きやすく、企業統治(Governance)のしっかり効いた集団として企業価値向上を図ってまいります。

株主のみなさまには、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2023年3月

Strong Culture

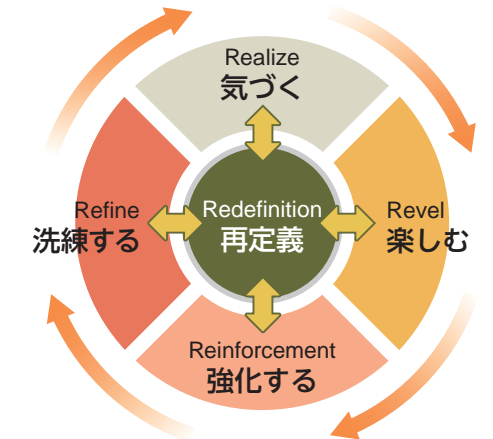
～「基本は技術」～

経営理念 Mission	新しい価値の創造により 社会の持続的発展に貢献します
目指す姿 Vision	1.我々は高い技術力を基本とした事業活動で顧客満足を達成します 2.上質な顧客価値の創造により利益を生み社会と株主に対する責任を果たします 3.全従業員が仕事に誇りをもち仕事を通じて人間的成長と幸福を達成します
行動指針 Rule	1.多様な分野の専門技術と連携し社会課題の解決に向けて挑戦を続ける 2.健全で透明性の高い誠実な経営を持続する

FCホールディングス

Founder's Consultants Holdings Inc.

■戦略ループ(5R:人材強化戦略)



■目標指標(成長性・効率性)

売上高成長率	5%/年平均
営業利益率	10%以上
ROE	10%以上
売上高/研究開発費率	5%以上
株主総利回り	中長期的な向上

計画の構成	VER.1:加速ステージ	VER.2:拡大ステージ
計画期間	2022.07~2025.06	2025.07~2028.06
売上高(計画期間末)	10,000百万円	13,000百万円

「スマートシティ」プロジェクトへ参画

地域を主体とするスマート東京先進事例創出事業に選定
福山コンサルタント

スマート高島平プロジェクト協議会(仮称)による「外出しなくなる・移動しやすい安全なまちづくり～回遊の分析・向上実装プロジェクトin高島平～」に参画し、東京都が募集した「地域を主体とするスマート東京先進事例創出事業」に選定されました。人流データの計測・分析を踏まえ、利便性向上や賑わいの創出等につながる取り組みを実施していきます。

※ 協議会の構成メンバー
(株)福山コンサルタント、東京都板橋区、国際航空(株)、(株)Luup



コロナ禍の海外技術支援

コロナ禍での緊急支援
アフリカ病院給水施設等改善
地球システム科学

海外渡航が困難な状況下において、日本からの資材送達とウェアラブルカメラを活用したリアルタイム映像を活用した遠隔技術指導により、アフリカ病院の給水施設等の改善に取り組みました。

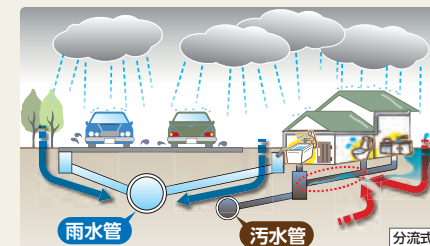


アフリカ病院給水施設での支援

研究開発

分流式下水管への浸入水推定に係る特許を取得
福山コンサルタント

AI技術を活用して、道路の陥没や下水道管の破裂などの被害が発生する原因の一つとされている下水道の汚水管への雨水浸入を高精度かつ効率的に絞り込む手法を開発し、この技術に係る特許を取得しました。
(公益財団法人日本下水道新技術機構との共同特許、特許番号:7143542号)



雨天時浸入水イメージ

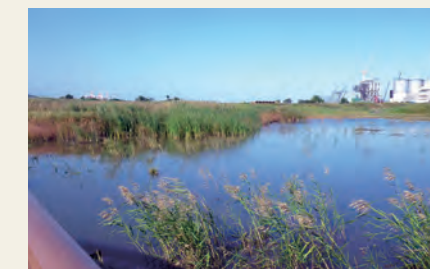
今回開発したAI技術により特定された地区を更に細分化して絞り込む技術や手法を実装することで、より高品質な下水道調査の実現を目指します。

SDGs

響灘ビオトープ(北九州市)OECM(試行)認定
エコプラン研究所

エコプラン研究所が北九州市の指定管理者として管理・運営する響灘ビオトープが、「国立公園などの保護地域以外で生物多様性保全に貢献する地域(OECM)」に登録され、2023年度試行期間を経て2024年度に正式に認定される予定です。

※OECMは、2030年までに陸域と海域の30%以上の保全を目指す目標「30by30目標」の達成に向けた施策の一つ

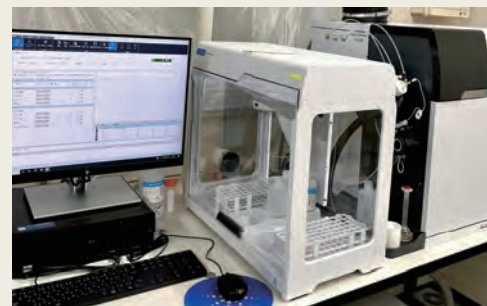


環境省「OECMの設定・管理の推進に関する検討会」資料

先進機器導入

ICP-MS(誘導結合プラズマ質量分析装置)を導入
環境防災

元素の定性・定量をppt(1兆分の1)レベルの感度で行うことができ、元素分析を行う分析装置を導入しました。徳島県生活環境保全条例に定める土壌汚染の重金属(鉛・ヒ素等)を同時に、かつ高感度で分析することや、上水試験の亜鉛・アルミニウム・鉄等、河川水の健康項目も測定が可能で、分析の効率化と競争力増強を図ります。



ICP-MS

大規模プロジェクトへの高い評価

鉄道・運輸機構九州新幹線局長より感謝状
福山コンサルタント

2022年9月23日に開業した西九州新幹線(武雄温泉～長崎(約67km))の建設工事への貢献に対し、感謝状をいただきました。



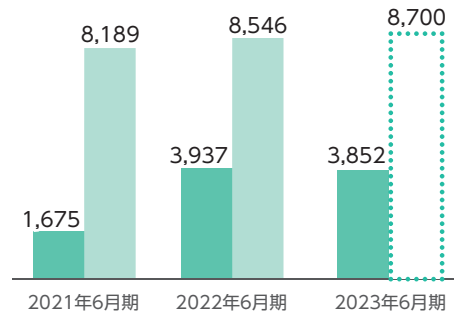
(独)鉄道・運輸機構九州新幹線局長様



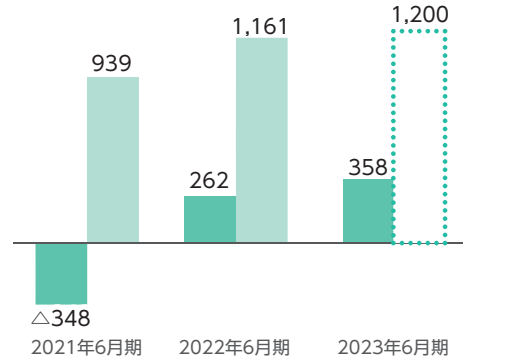
西九州新幹線の位置図

■：第2四半期 ■：通期 ■：通期計画

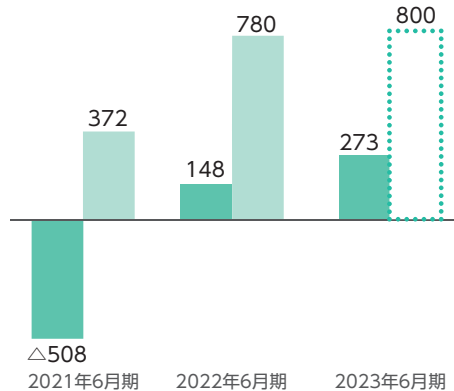
連結売上高
3,852百万円
 前年同期比 **-2.2%** →
 単位：百万円



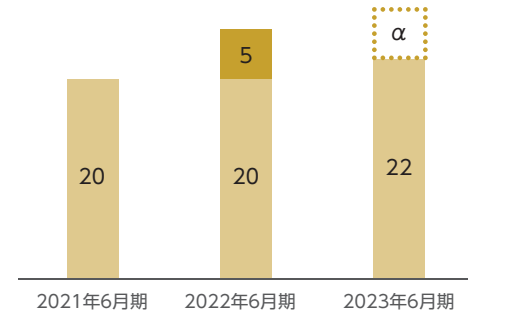
連結経常利益
358百万円
 前年同期比 **36.6%** ↑
 単位：百万円



連結当期純利益
273百万円
 前年同期比 **84.4%** ↑
 単位：百万円



配当
 期首公約配当額 **22**円 ↑
 単位：円



※期末基準日で1株を1.1株に分割(前期までの4期連続)

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)等を2022年6月期第1四半期連結会計期間から適用しています。

連結貸借対照表(要約)

単位：千円

科目	前期末 2022年6月30日	当四半期末 2022年12月31日
資産の部		
流動資産	3,836,016	5,385,496
固定資産	5,098,297	5,101,140
有形固定資産	3,968,563	3,993,540
無形固定資産	316,691	294,405
投資その他の資産	813,042	813,193
資産合計	8,934,314	10,486,636

科目	前期末 2022年6月30日	当四半期末 2022年12月31日
負債の部		
流動負債	1,966,120	3,295,839
固定負債	928,453	930,585
負債合計	2,894,573	4,226,425
純資産の部		
株主資本	6,078,595	6,277,237
資本金	400,000	400,000
資本剰余金	901,207	925,181
利益剰余金	4,989,062	5,131,551
自己株式	△211,673	△179,495
その他の包括利益累計額	△38,854	△17,025
純資産合計	6,039,741	6,260,211
負債及び純資産合計	8,934,314	10,486,636

連結損益計算書(要約)

単位：千円

科目	前四半期 自2021年7月1日 至2021年12月31日	当四半期 自2022年7月1日 至2022年12月31日
売上高	3,937,526	3,852,902
売上原価	2,908,480	2,660,544
売上総利益	1,029,046	1,192,358
販売費及び一般管理費	773,112	842,548
営業利益	255,934	349,809
営業外収益	13,898	15,475
営業外費用	7,032	7,168
経常利益	262,799	358,116
特別利益	34	181
税金等調整前四半期純利益	262,834	358,297
法人税等合計	113,864	85,207
四半期純利益	148,969	273,090
親会社株主に帰属する 四半期純利益	148,969	273,090

連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

単位：千円

科目	前四半期 自2021年7月1日 至2021年12月31日	当四半期 自2022年7月1日 至2022年12月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	△1,717,331	△1,747,894
投資活動による キャッシュ・フロー	△5,535	△84,674
財務活動による キャッシュ・フロー	1,000,377	1,268,166
現金及び現金同等物に 係る換算差額	59	△18
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△722,429	△564,421
現金及び現金同等物の 期首残高	2,203,039	1,957,868
現金及び現金同等物の 四半期末残高	1,480,609	1,393,447